

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「自分らしく最後まで」「新しい家族」2つの理念を掲げ、ご入居者の生活を支えていけるようサービスに努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各ホームに掲示をしており、会議、ミーティングなどの際に全職員で唱和することで、常に念頭におき、日々意識して取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ホーム内、見やすいところへ掲示。入居案内の資料にも記載しており見学に来られた際に説明している。 ・家族面談、運営推進会議などでも説明し、地域の方、ご家族へホームの考えを理解していただくよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ホーム独自の新聞を毎月発行し、ご入居者と一緒に近隣の方に配布している。又、月に一度、子ども会清掃への参加やホームでの地域の方に向けた行事を行なっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・毎月1回の子供会清掃への参加やリサイクルBOXを担当させていただくことで、より地域の方との交流が深まるように努めている。 ・地域の防災訓練、公民館行事、バスハイクなどに参加させていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・民生委員の方より地域で行われている行事等の情報などをいただき交流できる場を作っていくよう取り組んでいる。 ・介護教室を実施し情報の発信に取り組んでいる。		・今後も介護教室、介護相談などを継続し、地域の方へ情報発信を行っていくよう取り組んでいく。 ・地域で行われているふれあいサロンへ参加させていただく。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価の意義を説明、理解し、全職員で自己評価を行なっている。 また、今までの評価を定期的に見直し改善、継続に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回運営推進会議を開いている。ホームの状況や行事などを報告している。又、様々な意見を基に仕組み、それに対する報告も行なっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行事の案内や研修生、中学生福祉体験学習などの受け入れに協力し連携を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修などに参加し、ホームでの勉強会を行っている。 ・入居の際にご家族へ説明し、必要に応じ家族面談などでも再度、説明を行い支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加し、ホーム内で報告しあっている。 ・定例ミーティングや会議、申し送りなど日頃から虐待に繋がりそうなことについて話し合い、虐待防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実際にホーム内の雰囲気などを見ていただいたり、ホームの状況をお伝えしたりすることで安心に繋がるよう対応を行っている。疑問点についても、その都度、説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご入居者が遠慮せず、意見、不満、苦情を言えるような環境作りを行なっている。 ・苦情窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項の中に記載し説明している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月のふれあい通信にて日頃の状況、健康状態、職員の移動などの報告を行っており、面会に来られた際に近況を報告している。 ・状況に応じ、電話、メールなどでも報告を行なっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・定期的に家族会、家族面談の機会を作り意見をいただいている。また、ご家族アンケートを実施しており、その中でも意見をいただいている。 ・苦情窓口として施設内、公的窓口を重要事項に記載、説明している。		・「ドキシート」(苦情の芽)に書き出し、それらが繰り返される事のないよう取り組んでいる。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月のミーティング、会議などで意見や提案をしてもらっている。また、職員それぞれが委員に属しており、委員会活動を通して意見、提案をもらっている。 ・定期的に個人面談を行い個人的に話しをする機会を作っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・3人体制を基本としているが、必要に応じて人数を増やしている。他階へいつでも支援が出来るよう、日頃から情報を収集し連携を行なっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ご入居者の状況により説明を行なっている。移動の場合は、お互いがホームを行き来したり、手紙を書くなどして安心に繋げている。 ・離職した職員へも、行事の際に声をかけるなどし、交流がなくなるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>・募集に際しては、性別、年齢、経験、資格などを理由に採用対象より排除することはない。 ・職員一人一人が目標をたて日々、取り組んでいる。定期的に自己評価を行い、リーダー、管理者などによる面談を行い話す機会を作り、個々に合わせたスキルアップに向け体制が整っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>・会議、ミーティング、申し送りなどで日頃から話している。 ・外部の研修や内部での研修などに参加し学ぶ機会も作っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部、内部の研修、ホーム内での勉強会などに参加できる機会を作っている。 ・自社がスクール運営をしているため、働きながら資格取得できるよう勤務体制を整え支援している。</p>		<p>・キャリアラダーシステムを導入に向け取り組み中。それぞれがコースを選ぶことで目標に合わせたスキルアップ研修に取り組んでいく。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・他事業所の研修に参加したり、交換研修などもおこなっている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・定期的に職員面談を行ない職員と話す機会を作っている。また、日頃から声をかけるなど話しやすい環境作りに取り組んでいる。 ・不定休であるため、出来る限り個人の予定に配慮したシフト作りを行なっている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・把握に努めると共に、自己評価、個人面談を基に必要に応じた育成、支援を行いキャリアアップに繋げている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居前にご本人に面会させていただいたり、見学の機会を作っている。 ・入居前に体験入居、ショートステイを利用いただき、ご本人の話しを聴く機会を多く作り安心していただける関係作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居に至るまでの過程の中で相談、話しを聴く機会を作り、不安の軽減や求めを受け止め対応を行なっている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族の求めに応じ、職員間で話し合い検討している。必要に応じ、他のサービス利用の支援を行なっている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・いつでも施設を見学していただける体制を整え、ホームの様子を実際にみていただき説明を行なっている。 ・いきなり本入居ではなく、体験入居、ショートステイを通してご本人、ご家族と相談しながら入居に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・新しい形での家族として、介護する側、される側ではなくお互い様である関係を築き、その中で喜怒哀楽も共有している。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご入居者の日々の様子を報告していく中でスタッフ、ご家族一緒になって喜び、悲しみを共有し一緒に支えられるように取り組んでいる。家族会や行事等に参加して頂く機会も作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時に日頃の様子を報告し、状況に応じて職員が間に入り会話をこなしている。外出、行事にご家族参加をしていただいたり、電話や手紙のやり取りも支援出来る様にしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人やご家族からの情報を基に個人レクなどを利用し、なじみの場所に行けるよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・外出やレクなどフロアー同士の関わりをこなしている。ホーム内でも日頃から関わりを多く取れるよう心がけている。状況に合わせて橋渡しを行ない交流を楽しんでいただいている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・年賀状、暑中見舞いや行事の案内などをし、継続的に交流が図れている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃の様子や会話、個人面談などでご本人の意向の把握に努めている。毎日の申し送り時やミーティングで職員同士情報を共有しご入居者一人一人の気持ちに立ち、思いの確認、検討をこなしている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人の馴染みの物を持ってきていただき、これまでの生活に近い環境になるよう努めている。また、ご家族、ご本人から情報を聞き安心して生活できるよう支援している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の生活状況を記録に残し、皆が把握できるよう取り組んでいる。また、ミーティングや毎日の申し送りの中でも情報交換を行ない状況把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・作成前にご家族の意向やご本人の希望を伺い、反映できるような計画を立てている。 ・サービス担当者会議の中で日頃のご本人の様子などを職員間で話しあい、利用者本位の介護計画作成に取り組んでいる。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・常に状況に応じたプランとなるよう見直しを行なっている。 状況に応じてケアカンファを行ないプランの変更も行なっている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録物には介護計画に沿った内容を記入し、日々の中で気づきがあれば記録に残すと共にスタッフ同士が声を掛け合い情報の共有を行ない介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・ご入居者の状況に応じて対応できるよう全ユニットで協力体制を整えている。2, 3階の一般浴槽に入るのが難しいご入居者は1階の介護用の浴槽を利用いただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・2ヶ月に一度の運営推進会議に民生委員、地域の方に参加をいただき協力をいただいている。 ・消防士会いのもと避難訓練を行ったり、単独外出などがあつた際にすぐに対応していただけるよう日頃から地域、警察の方に協力をお願いしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・見学に来ていただいたり、情報交換を行いながら協力をいただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・2ヶ月に一度の運営推進会議に参加をいただき、協力をいただいている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医がある方に関しては、入居後も利用を続けていただけるようホームでの状況を報告し支援している。 ・地域の医療機関との連携を図っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・往診、受診の際に相談し先生より指示、助言をいただいている。 ・状況に応じ受診に職員が付き添い、状況報告などを行い適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・往診、受診などの際に日々の状況を報告し、相談し助言をいただきながら支援を行なっている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院中は頻繁に面会を行ない、会話したり気分転換していただけるよう努めている。医者、家族、スタッフと話し合いの場をもうけたり施設内でリハビリ、運動が出来るよう医療関係者から指導を受け行なっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ご家族面談などの際に話をさせていただいている。また、入院中などの状況に応じて医師も含め話し合いの場をもうけ検討している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・ご家族、担当医と連携をとりながら定期的に更新される介護サービスにその時に合ったケア内容を盛り込んでいる。 ・他ユニットとも情報を共有し、全体で協力体制が取れるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・住み替えに際しては、情報提供を行っている。 ・退居後も行事の案内をさせていただいたり、面会に行かせていただき、繋がりを続けていけるよう取り組んでいる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入居者の状況に応じ言葉遣いは変えているが原則として敬語にて言葉かけしている。記録など他入居者の名前を記入する際はイニシャルにてプライバシー保護を徹底している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・ご入居者一人一人にあったケアを行ない日常の中でご本人から希望を表してもらえようケアをしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・スタッフ側のペースに合わせるのではなくご入居者一人一人の生活リズムやその時々のお気持ちに合わせて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・月に1度移動理美容が来ており、希望される方は利用していただいている。また行きつけの美容室がある方に関しては定期的に行きつけを利用していただいている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者の能力に応じて、調理、味見、盛り付けなど行なっていただいている。 ・ご入居者と一緒に職員も食事をし、会話、音楽などを取り入れながら楽しい雰囲気作りを行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お一人お一人の好みの把握に努め、出来る限り希望された時や状況に合わせ提供している。 ・気軽に好みの物を購入していただけるよう事務所内のリフレッシュBOXも活用し楽しんでいただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・利用される方に合わせた時間、使用するオムツ類を選び、その時の状況に応じ合わせて行なっている。 ・排泄の誘導時間、使用しているオムツなどに関して職員間で話し合い検討している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・職員が入浴時間を決めてしまうのではなく、ご入居者の希望などを聞きながら支援を行なっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・眠れない様子のご入居者にはホットミルクの提供や安心できるまで一緒に過ごしている。 ・ご入居者の状況に合わせ、ベッドではなく布団で休んでいただくなど、その時の状況に合わせ対応を変えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・家事が好きな方、運動が好きな方、お話が好きな方、散歩が好きな方と様々であるが、その方、その方の好きな事を行なっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々の力量に応じて買い物の際に財布を持っていただき、支払いを行なっている。 ・金銭管理が難しい方には、買い物の際に小額入れた財布を持っていただき、買い物する喜びを感じていただいている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・希望に副ったレクリエーション、外出を行なえるよう取り組んでいる。 天気の良い日は、庭やホーム近くの散歩などの機会も作っている。 ・玄関に施錠をせず、自由に出入りできる環境作りを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・ご本人による希望地あれば、それに添って計画と一緒に作成している。ご家族へ声かけを行い、可能であれば参加していただいている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・能力の有無を考え、可能な方には、年賀葉書などを書いて頂いたり、希望により電話をかけている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族、ご友人へは、いつでも訪問していただけるよう、日頃よりお伝えしている。来られた際は、一緒にお茶や食事を楽しんでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎日、話し合いの場を設け、拘束を行っていないか、拘束に値する行為か、であれば、どのように改善していけばよいかを話し合い、対策に取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵をかけることが身体、心の抑制に繋がることを全職員が理解すると同時に、鍵をかけないことでのリスクを話し合い、事故が起らないよう取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・誰がどこでどのように過ごしておられるのか、スタッフ同士で伝え合っている。トイレ内や居室内で過ごしておられる方には、時間をみて訪室や声かけを行ない、安全確認をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・手や口にはしてはいけない物には、目につかない所や手の届きにくい場所に置き、必要な時は、スタッフが見守れる場所にて、危険行為を防いでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・職員がそれぞれ研修などに参加し学んでいる。ミーティングなどの際に事故について話し合い、事故防止に努めている。 ・ヒヤリシートを作成し、大きな事故になる前に小さなことに気付くようシートを活用。職員間で情報を共有し、話し合い取り組んでいる。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署が開く講習を含め、施設内での勉強会を開き、学んでいる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回、消防署立ち合いのもと、総合避難訓練を行なっている。また、地域の方々にも参加の呼びかけを行ない、協力を得られるよう働きかけている。		・近隣と関係を密にし、協力していただける体制作りを引き続き行っていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・まず、職員同士で対策も含め話し合い、ご家族の面談、面会時に説明し、ご家族の意見も聞き対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日、バイタル測定を行なっている。特変がある際は、職員同士で声をかけあい、速やかに情報が共有できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・月に1度、ミーティング時に薬の確認を行なっている。また、個々に合わせた服薬の支援を行ない、変化があれば、すぐに対応できるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・個々の介護記録に、排便の状況を把握し、日頃から個々に応じた水分摂取や運動を取り入れ、自然排便につながるようにしている。又、毎食後、寒天ゼリーを提供し、なかなか水分が摂れない方にも、スムーズに水分が摂れるよう工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアを行ない清潔保持に努めている。また、週に1度、歯科往診時、口腔ケアのアドバイスをいただいている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご入居者お一人お一人に合わせ、水分の形体や時間帯を変え提供している。食事は、人に合わせて野菜多めのメニューや間食の提供などを行なっている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・出勤時、退社時には必ずスタッフの健康チェックを行なっている。 ・手洗い、うがいの徹底。必要に応じたマスク着用を行い、定期的にリスク委員会を中心に感染症勉強会を開いている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・冷蔵庫内、食品棚の定期的な整理。購入日を決めるなどの工夫。毎日の消毒液使用の消毒、熱湯消毒など、様々な消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・庭がある為、季節ごとの花、野菜を植えている。ご家族より提供される植物も植えることがある。玄関に情報掲示板を設けている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングや廊下にソファを配置し、居心地よく過ごせる環境を作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファとテーブル席とがあり、好きな所に座れるようになっている。一人で座っている方に対する、言葉かけも行っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅より持ち込まれた家具を使っておられる方が殆どであり、遣い慣れた物を使った生活を送っておられる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・定期的な換気を行ない、調整を行なっている。 ・エアコンによる室温調整を行なっている。 ・室温計を活用し、自己判断だけで行わないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・内部は車椅子でもゆっくりと通れるよう広く作られており、また、廊下には、手すりを設置しており、自立した生活が送れるよう工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・スタッフも一緒に行動し、事前の声かけや説明を行なうことで、混乱、失敗を防ぐようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭には、季節に応じた花がある。また、畑には、野菜などを育ててあり、入居者さんと職員と一緒に活動できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない